

T2*強調画像における SVS 長の定量的評価が血栓回収術の First-Pass Effect に与える影響: 単施設前向き・後ろ向き観察研究

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

急性期脳梗塞に対する血栓回収術(血管内治療)は、詰まった脳の血管の血栓(血の塊)をカテーテルで取り除く治療法です。治療の成功には血栓の性質が重要であることが分かっています。MRI 検査の T2*強調画像という撮影法では、血栓の特徴(SVS:susceptibility vessel sign)を画像上で評価することができます。

この研究では、SVS の「長さ」が治療成績(1 回の手技で血管が完全に再開通するかどうか)や、使用する治療器具の選択にどのように影響するかを調べます。過去の診療記録、MRI 画像、CT 画像、治療データを収集し解析します。診療を通じて得られた情報を使用しますので、新たな検査や治療をお願いすることはありません。また、回収された血栓が病理検査として保存されている場合、その組織標本も研究に使用させていただきます。

研究の対象となる方

2021 年 1 月～2026 年 12 月に当院で急性期脳梗塞に対する血栓回収術を受けられた方のうち、中大脳動脈(M1, M2) と呼ばれる脳血管の閉塞に対して治療を受けられた方

使用する試料・情報

年齢、性別、既往歴、入院時の神経症状の重症度、発症からの時間、MRI・CT 画像所見(SVS 有無・SVS 長・閉塞部位)、治療内容(使用した器具・治療回数・治療時間)、治療後の画像所見、3 ヶ月後の回復の程度、回収された血栓の病理組織検査結果(保存されている場合)。

使用開始予定日:2026 年 5 月 22 日

研究予定期間

2026 年 5 月 22 日～2027 年 12 月 31 日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

[研究の情報管理責任者] 脳神経内科 長尾洋一郎

[当院の個人情報管理責任者] 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 脳神経内科 長尾洋一郎

住所: 熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話: 096-351-8000(代表)